

地域から「地方創造」へ

—熊本での「デザインフォーラム」を通して

網本義弘 (学際サロン「テクネ」代表、九州産業大学名誉教授)

昨今しきりに言われている「地方創生」というスローガンは、あくまで国の中央からの、やや「上から目線」的なものであって、本来私たちに最も必要とされているのは現在の中央1点からの発想でなく、歴史的過去には中央であった今の地方各所を含め、各自が住む地域文化を持つ全国各地多数点からの独自でオリジナルな提案を全国に発信すべきなのでは。つまり、地方創生と言うより「地域からの全国地方創造」なのである。

《熊本デザインフォーラムを通して》

昨年11月、その歴史的に有名な熊本城を生んだ地で、熊本県インテリアコーディネーター協会の、「気」の空間デザイナーとしても活躍する永井晶子会長の企画のもとに、30周年記念フォーラムが開かれた。

大阪を本拠地にして世界的なプロダクトデザイナーとして活動すると同時に、国内各地の素材と伝統技術をグローバルな視点から海外との協働事業を長年続けられ、最近では島根県産の「竹」と言うエコ素材による、海外も驚いた画期的な椅子デザインも行なう喜多俊之氏の、まさしく「地方即世界」的な講演には、県内外で活躍する建築、デザイン関係者約80名が集う。その同氏の、締めくくりの意想外とも言える「美しい良き世界」への「素敵なデザイン」との優しくも普遍的言葉には、全員がグーッと気づく。

そして、2016年の熊本地震被災との関連もあって、阪神大震災で実家が半壊した経験から「防災デザイン」に関する発想と教育に取り組んでいる私まで招かれたので、地震の際でも全く安全であった「阿蘇ファームランド」にも適用されたトラス原理応用ドームや、学生作品で海外でも評価された「トラス・アート」を紹介の後、昨年の台風豪雨によって泥水に漬った生活財の殆どが廃棄という悲惨な報道映像を見るにつけ、ふと思った「防、耐泥水デザイン」を提案させてもらったところ、皆さんニッコリ、と。

《地方からの伝統新発想》

また熊本地震前には、元松下電器産業のデザイナー、崇城大学教授であった船津邦夫氏のアイデアによる、地元産の竹を使いその節目目を活かすことによってユニバーサルデザイン的となり、国内外でも話題となった『節目箸』の存在は、小さな物でも誰もが新しく楽しめる『創造』と言えよう。

城壁など損傷した熊本城は、四百年以上も前に地方列強のシンボリックな空間防禦装置として、築城の名手でもあった武将加藤清正によってとされる、忍者もお手上げの「武者返し」という驚くべき曲面城壁の創造で有名。それなら今度は巨大な自然力も及ばないような防災装置を熊本から、いや東北地方などの自然災害地域どうしが連携して、ユニークな開発を期待したいものである。

熊本フォーラムの後、家具産業で全国的にも知名度の高い福岡県大川市では、大空を駆ける木製グライダー造りでテレビでも話

From Areas to the “Regional Creation” -Through the “Kumamoto Designforum”

Yoshihiro Amimoto (Chairman of Interdisciplinary salon “Techne”, Honorary Professor of Kyushu Sangyo University)



「竹の椅子」デザイン 喜多俊之



熊本発「節目箸」節目に穴をあけてジョイント可能にした 船津邦夫 作

題になっている若手インテリアデザイナー酒見智大さんの自社を含めて、『木工万能産地・大川プロ向けファクトリーツアー』冊子を基に、数ヶ所を案内してもらう。そこでも又、他所では見られない様な、地方独自の歴史感性から成る地元素材の現代生活空間への新たな応用とオリジナルな技法を見出した喜多氏は、世界発進への国内外業界との協働をと、まさに「地方から全国・世界へ」の心地良く、実り多いひと時であった。